

令和2年度 延岡市立旭中学校 学校関係者評価書

段階評価

4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

本年度の重点目標

学力の向上

心の教育の充実

健康・安全・体力の向上

夢・自信・誇りの育成

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	記評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
学力の向上	1 基礎・基本の徹底 4つのチェックポイントによる授業実践、学力の経年変化分析、語彙力・要約力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究として全職員で授業実践に取り組んだが、コロナ対応のため班活動やグループ活動が制限された。 ・学級で新聞を使って語彙力・要約力の育成を図った。 ・毎日の課題とその点検を行い、基礎学力の向上に努めた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・メンター方式の取り入れは大切なことだと思えました。 ・はげまし隊としてわずかな時間ですが、英語宅習のチェックをお手伝いしています。それを通して各生徒が頑張って学習に取り組んでいると感じます。学力差は否めませんが、日々の積み重ねが表れているように思います。 ・コロナ禍の中で、学力を維持向上させるための学校教育はどうあるべきか？ネガティブになりがちな生徒のメンタル面（思考・感情・行動）の指導教育を見直し協議して欲しいと願っております。「少人数学習・生徒指導」等々。 ・旭中学校は学力が高いとの声をよく聞くので、とても良いことと思います。
	2 思考力・判断力・表現力の育成 総合的な学習の時間を核とした教科横断的な授業の工夫、地域人材の活用（はげまし隊、社会人メンター）	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも対策をとりながら地域人材を活用し、意見をとりまとめ、自分たちの言葉で発表する場を意図的に設定することができた。その結果、自分の意見をしっかりと伝えることができるようになった。 ・外部人材活用・話し合い活動等、制限が多かったため、今後リモートでの講話など多様な学習方法ができるとうよい。 	3		
	3 指導力の向上 校内研修の充実、相互授業参観・評価実践による授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観選問の実施及びその事後研を通して研修が充実した。 ・主題研の班編制にメンター方式を取り入れ、ベテランと若手相互の授業改善が進んだ。 ・校内研修で次年度から本格的にスタートする新教育課程について理解が深まり指導と評価の一体化を図る取組を進めることができた。 	3		
	4 学習基盤の整備 小中共同実践事項の徹底（チャーム黙想・返事等）、読解力の育成、補充指導の充実、教育課程の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、小・中合同研は実施できる内容に限られたが、小学校の授業参観・協議を通して、共通実践事項の取組状況を共有できた。 ・次年度は中学校が中心になり計画的に実施していく。 	3		
心の教育の充実	1 社会性の涵養 あいさつ・返事・ルール・マナー指導の徹底、体験学習の充実・儀式的・文化的行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校門指導や日頃の指導によって、あいさつ・返事が良くなってきている。 ・校内外問わず元気よくあいさつができています。 ・全体的には良くなってきているが、まだまだ伸びしろがある。 ・年度初めの臨時休業もあり、年度当初の指導が不十分であったため、特に1年生において周りのことを考えて行動する力が身につけていないと感じる。 ・時間を守る（特に朝の点検活動）を徹底させることができなかった。集団行動の機会が少なかったことも影響していると思う。 ・コロナ禍の中、予定した体験学習（職場体験等）を思うように実施できなかった。実際に働く体験をさせられなかったのは残念である。 ・プリントを渡す時などしっかりと「お願いします」と言える生徒が多い。 ・常時指導により多くの生徒に社会性を身につけさせることができたが、ネットワークを通じたトラブルもあった。ケータイ・SNS 使用の具体的な指導が必要である。 ・いつでも、どこでも、誰にでもあいさつできるよう常時指導を強化する。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・良いことはもっと伸ばしてあげて欲しい。できなかったところは別な視点で試してみてもどうか。 ・メンタルヘルスは年齢を問わないと思うので機能の充実は大切である。 ・生徒によって多少差はありますが、挨拶はおおむねしっかりできてきているように思います。 ・「危険箇所マップ」を作成し地区長に配付しているが、指摘事項に対しての動向はどうか。地区長の検討状況をフィードバックし、報告することで生徒の励みになると思います。 ・「青パト巡回時の防犯アナウンステープ」の作成と旭小中校区青少年協会の贈呈は素晴らしい活動であったと思います。 ・「青少年の主張宮崎県大会」で優秀賞を受賞し、文武両道の活躍の1年であった。 ・祝HP 10万人突破！令和元年度の評価でお願いした更新継続について、早速実行していただき管理職及び関係者の方々に感謝します。 ・学校訪問の際、生徒からあまり挨拶をされない。・ポイント稼ぎのボランティア参加になっていないか。分からないことは積極的に聞く姿勢がほしい。 ・コロナ禍の中で、心の教育の充実がとても大事だと思います。ほぼ期待どおりにできたと思います。 ・行事、イベントの縮小・中止によって、みんなの協調性等を育てることができなかったのではないかと。特に生徒個人個人が一人の時間をどう過ごすか、単にスマホゲームやテレビに時間を費やすだけでなく、しっかりと将来に対する自分の考えをもって、一日一日の生活ができるように指導して欲しい。 ・挨拶については「校外では不審者対策として挨拶しないとの情報があります」①元からしないのか②元からできないのか③恥ずかしいのか④挨拶が良くてできると答えた人の意見を紹介してもらいたい。桜の下草刈りに来た生徒は元気に明るく挨拶してくれました。 ・登下校時に戯れなのか本気なのか、絡まれている姿を見るとの情報あり。校内・校外のいじめ実態を知りたいと思います。
	2 自尊感情、人権意識の醸成 「道徳科」及び、人権教育の内容充実、特別支援教育の充実、生徒指導の三機能を意識した教育実践	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことがその時の感想文で終わっていることもあったが全体的に生徒の道徳性は高まっている。 ・道徳科をさらに充実させる取組として、学年の職員全員で様々な視点から授業を行うことを推進していく。 ・新設された「道徳科」の評価方法について、更に研修を深めていく必要がある。 	3		
	3 自ら考え、判断し、行動する主体性のある生徒の育成 積極的・開発的生徒指導の推進、生徒会活動の活性化、勤労生産奉仕的行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動を活性化させるために、一人一人の積極性を高める工夫が必要である。 ・特に3学期は自発的な行動ができるよう給食の前後の動きについて生徒自らに考えさせた。 ・生徒主体の活動をもっと増やせると良かった。送別行事で何か工夫したい。 ・委員会活動を通して自立を促したが、やるべきことはまだたくさんある。 	3		
	4 人間関係の基盤づくり ボランティア活動の推進、学級・学年経営の充実、いじめ不登校対策委員会の機能・内容の充実、旅行・集団宿泊的行事の充実、段階的生徒指導の整備、ガイダンス・カウンセリング機能の充実、SCの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・4月・5月の休校により人間関係やリーダー性の育成がやや遅れ、それが生徒の自発的な行動につながりにくかった。 ・いじめ不登校対策委員会は生徒指導主事を中心に情報共有が行えた。 ・SCによるメンタルヘルス講話を実施し、SCの存在や役割を生徒に啓発できた。更にカウンセリング機能を充実させたい。 ・ボランティア（薪能・のぼりざる・桜の下草刈り以外）の案内も積極的にしていく必要がある。 ・外に出て行かなくてもボランティアはできる。校内でできることを洗い出し生徒会活動として実践してみるのがよい。 ・生徒間に助け合う場面が多く見られた。 	3		

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
健康・安全・体力の向上	1 体力や運動能力の向上 体育の授業・部活動・保健安全体育的行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> 限られた活動の中で体育大会やロードレースクラスマッチなどの取組を工夫できた。 コロナ禍で部活動の練習や大会に制限があり、充実が図れなかった。 短時間練習での質の向上をテーマに、部活動のあり方について見直すよい機会となった。制限がある中でもできることはやれたと思う。 部活動の対外試合の自粛が続き、生徒のモチベーションの維持が難しかった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 部活動のあり方について見直す機会ができたのは良かった。 食の教育も重要な分野だと考えます。 地区の回覧で「地域防災学習」をまとめた冊子を読ませていただきました。よくまとめてあり、防災学習の大切さを理解して学習に臨んだことが感じられました。 今年度も市中体連と県秋季大会において、コロナ禍の中、部活動もままならぬ限られた状況で、ソフトテニスとバスケットボール及び陸上競技で、入賞の成績を収めたことは称賛に値する活躍であった。 街中でマスク無しの小中学生を見かけることが多く、当校の生徒は大丈夫か。指導の行き届かない校外で、コロナ感染対策の無防備な行動は、保護者の責任が大であり、確認する必要があるのではないかと思います。 コロナ禍の中、人との接触がある体育の授業が難しかったのではと思います。部活動等、制限がある中で、先生や生徒ともに大変だったと思います。スマホの取扱い等が今後重要になるのでは…使いすぎがあると思う。
	2 望ましい生活習慣の醸成 保健指導の推進、学校保健委員会の内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> スマホゲームのしすぎによる生活習慣の乱れも多い。継続して指導・啓発していく必要がある。 生活習慣が乱れた生徒がいる。学活・委員会の充実と保護者との連携が必要である。 	3		
	3 安全教育の推進 定期的な安全点検の実施と改善、施設の安全管理徹底、防災教育の充実、体験型訓練（避難訓練等）の実施、危機管理マニュアル・アクションプランの整備	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、めまぐるしく変わる状況にあわせながらよくできたと思う。 防災学習の報告書を作成し、地域へ還元することができた。（地域とのつながりを維持できた） 防犯学習や避難訓練の充実により防犯に関する意識が高まった。 新型コロナ対応マニュアルを作成したり感染状況に応じた対応の検討を行うことができた。 定期的に安全点検を行い、その結果を改善に活かすことができた。 	4		
	4 食育の推進 栄養教諭の活用、弁当の日の実施、給食放送の充実	<ul style="list-style-type: none"> 給食時間の様子等を栄養教諭に見ていただく時間を設け指導助言をいただく。 放送で今日の一口メモ（給食）等を伝えても良いと思う。リクエスト曲もあってよい。 給食準備が遅かったが改善でき、残食はほぼなかった。 	2		
夢・自信・誇りの育成	1 キャリア教育の充実 総合的な学習の時間・講師派遣事業・ふるさと教育「子どもたちに伝えたいこと」の充実、特別活動を要した教科横断的キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 様々な制限の中でできる限りのことを協力して行うことができた。 地域防災やキャリア教育に積極的に関わり、防災の大切さや今後の生き方について考えさせることができた。 将来就きたい、また関心のある仕事について調べ学習と発表を行い、進路に対する意識を高めることができた。 校外学習や保護者・地域とのつながり等、ネットを使った新たな取組ができないか模索する必要がある。 教育課程の見直しを行い、更に効果的なキャリア教育の工夫を行う。 今後さらに工夫しながら子供たちが夢や希望をもって学習に取り組めるようにしていきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> コロナの状況はいつまで続くかわからない。これからも新しい可能性を広げていってください。 働き方改革はどの職場でも大変重要なことなので、これからも意識の向上につとめてください。 コロナ禍で「あれもできない、これもできない」と思いがちですが、「これならできる、こんな工夫をすればいいのでは？」と前向きにとらえ、ますます成長してほしいと思います。 学校と保護者の真の協力関係の基本は「対等・信頼・責任」をお互い担うことにあると思います。この基本をもとに課題項目である②夢・自信・誇りの育成の目標達成のため保護者に諸問題を啓示し、目標達成に向かって邁進していただきたいと思っています。 策定した項目ですべてとは言わないが、目標達成のためのPDCAサイクルの徹底と、その活動経過と結果に対するフォローアップの徹底をお願いいたします。 日本の歴史の中心が奈良・京都と学ぶが、それ以前日本の起源は宮崎・高千穂であることを古事記を使って学ばせて欲しい。そうすればこの宮崎に誇りがもてるはず。この地を愛することで、この地の発展に力を注ぐ人材が増えると思います。 地域とのつながり等、とても良くできていると思います。HPの内容も、どんどん充実していると思います。この調子で、もっと情報発信できればと思います。・対外的な活動（体験活動）を充実させ、学校の外にある考え方をたくさん吸収してほしい。
	2 保護者・地域との連携充実 地域への貢献活動、伝統行事の継承や地域人材の活用、学校支援コーディネーターの機能充実、CS準備委員会による研究、PTA・地域諸団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子や学校からのお知らせを細やかにHPにアップし、意図的に学校からの情報発信を行った（HPやらくらく連絡網）。また欠席連絡等についてHPを活用するなど新たな取組も行った。 HPの内容の充実により、コロナ禍の中でも保護者や地域との連携が深まっていると感じる。（アクセス数4月49,136→1月末100,000） コロナ禍のため外部との関わりが減ってしまったが、例年ではできない活動に手を広げることで、新たな可能性が広がった。 PTA活動も制限されたが、その中で工夫しながら保護者との連携が図れた。 	3		
	3 教職員評価・学校評価の活用 PDCAサイクルの徹底、学校の課題解決、行事等における目的の明確化、学校組織力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 企画委員で学校の課題を洗い出し、次年度の学校運営につなげることができた。 行事後の反省を計画的に記入し、次年度に生かすようにする。 企画委員会、職員会を通じて学校の課題解決等に取り組むことができた。 職員各々の役割（各委員会主体の活動・校務分掌の役割・学年での役割）を意識して活動する必要がある。 	3		
	4 校内コンプライアンスの推進 校内委員会の設置、研修の実施、働き方改革の推進、各種委員会の整理統合と定例化、報告連絡相談の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にコンプライアンスの点検や研修を行い、働き方改革に対する意識も向上してきた。 遅刻欠席連絡のweb対応等、働き改革を進めることができた。 チェックよりも普段の取組が大切だと考えており、よくできたと思う。 	3		
<p>[次年度の方向性についての校長所見] ※ 関係者評価書を、令和3年度の学校経営ビジョンに具体的に反映させていく。特に以下の項目に重点的に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校長のドリームプランサポート事業の活用～「あさひタイム」を核としたキャリア教育の充実 2. HPによる情報発信の更なる充実～保護者・地域との絆づくり、生徒の自信や誇りの育成 3. 働き方改革・コンプライアンスの推進～コロナ禍中の取組の成果還元 4. 生徒の自己指導能力の育成～生徒指導の機能を生かした学級・学年経営の充実 					